

令和6年度 高崎市 自己評価・学校関係者評価報告書

幼稚園目標	心身ともに健康で、豊かな心情と創造力・自立心をもつたくましい子どもを育てる
-------	---------------------------------------

項目評価・対象評価
A 十分に達成できた
B 達成できた
C もう少しで達成できた
D 達成できなかった

自己評価						学校関係者評価		改善策	次期重点 該当の項目3つに●
評価対象	重点 該当の項目3つに●	評価項目 ◎は市教委指定必須項目 < >内は「高崎市の学校教育」の該当ページ	評価指標	具体的な方策	項目評価	対象評価	意見等		
Ⅰ 教育課程		◎小学校との円滑な接続を図るための計画的・継続的な連携<p7>	◎小学校との接続を意識した教育課程の編成や、小学校と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共有に努めている。	80%以上の教職員が「小学校との接続を意識して保育できた」と答えている。	幼小中共同で設定した倉渕地区「子どもの発達と学びをつなぐ15年間」のガイドラインを踏まえ、幼稚園児として身に付けたい基本的な生活習慣を意識し、日常的に指導を行う。	B	B	・幼稚園(保育園)と小学校の円滑な接続を図るため、小学校の教職員に本園に来園してもらい、保育の内容や子どもの状況を知ってもらえるよう、小学校に働きかける。 ・毎月実施している倉渕地区幼小中校園長会議を生かし、形式的な連携から実質的な連携を模索する。	
Ⅱ 確かな学力	●	◎遊びや体験を通した保育の充実	◎ものや人などに主体的に関わることができる環境の構成や援助の充実に努めている。	80%以上の保護者が「園は、園児が楽しく意欲的に遊べるよう環境づくりや働きかけを行っている」と答えている。	園内研修を通して、異年齢の児童が共に楽しく意欲的に遊べるように、環境構成や子どもとの関わり方を工夫し、充実を図る。	A	A	・倉渕地域の特色を活かした保育ができている。職員、皆さんの努力(工夫)が感じ取れます。 ・お互いのコミュニケーションづくりができている。年齢的に言葉の表現は園児にとって難しいでしょうが、保育の中で、学力向上に向けた取組を継続していただきたい。	●
		○言葉で表現する力の育成<p4>	幼児一人一人の発達段階に応じ、教師の話や聞きことうとする姿勢や自分の思いを言葉で表現できるように支援に努めている。	80%以上の教職員が「児童が話を聞けるよう、また自分の思いを言葉で表現できるように働きかけている」と答えている。	教職員が子どもの話を丁寧に聞く姿勢を持ち、子どもたちに話をよく聞くことや自分の思いを言葉で話すことの大切さに気付かせるとともに働きかけを行う。	A			
Ⅲ 豊かな人間性	●	◎温かい人間関係づくり	◎主体的な活動の基盤となる安定感をもたらす信頼関係の構築と、幼児一人一人の発達を促すための状況に応じた適切な援助を行っている。	80%以上の保護者が「周りの友達を意識し、認め合ったり励まし合ったりする姿が見られる」と答えている。	友達や異年齢の他者に対し、優しい言葉がけや行動ができるように励ますとともに、優しい言動を賞賛する。	B	B	・同じ学級の中においても、異年齢交流の中においても、子どもたちの温かい言葉かけや思いやりのある行動が見られた。今後も意識して指導していきたい。 ・子どもの発達段階や実態を踏まえ、その子に合う指導を共通理解を図りつつ行ってきた。今後もチームとして共通理解を大切に取り組み、いじめない安心して過ごせる環境をつくっていきたい。	●
		◎いじめのない環境づくり	◎「いじめ防止プログラム」に基づいた、いじめを起さない集団づくりを推進している。	100%の保護者が「いじめがなく仲良く遊ぶよう取り組んでいる」と答えている。	ルールを守らない行動や、相手を傷つけるような言動は見過ごさず、なぜいけないのかを、わかるように指導する。	B			
Ⅳ 心身の健康と体力		◎体力向上と丈夫な体づくりのための計画的・組織的な取組<p6>	◎毎日の運動の習慣化と運動量確保の工夫に努めている。	80%以上の保護者が園は「伸び伸び体を動かし、元気に活動できるようにしている」と答えている。	子ども一人一人が興味関心を持ち、友だちと関わりながら安全かつ主体的に楽しく運動できるような環境構成をつくるように努める。	A	A	・秋の運動会を見学した時、園児の明るく元気な姿が印象的でした。園が、園児の体力向上と丈夫な体づくりに取り組んでいることを実感しました。	
Ⅴ 安全確保・施設整備		◎家庭・地域・関係機関と連携した危機管理の充実<p9>	◎家庭・地域と連携して、施設・設備の安全管理や交通安全指導の充実に努めている。	90%以上の保護者が「連携しながら安全に努めている」と答えている。	命を最優先にした交通安全指導や避難訓練等を実施し、講話やお便りを通して園児だけでなく保護者の危機管理意識の向上を図る。	B	B	・年間を通して、計画的に園児の安心・安全のための取組ができている。年齢的に早いかもしれませんが、「命の大切さ」を学ぶ機会があってもよいのでは。	
Ⅵ 特別支援教育		◎個に応じた指導の充実<p7>	◎幼児一人一人の特性の多面的な理解と、発達の課題に応じた支援を行っている。	90%以上の教職員が「一人一人の特性や発達課題に即した指導ができている」と答えている。	発達特性に関する研修に参加したり、園内研修でも資料から学ぶ機会を設け、特別な支援のあり方を共通理解するとともに、実践を通して改善を図っていく。	B	B	・保育の様子から、個を大切にした援助ができていると感じる。個の主体性を意識した指導もできている。 ・一人ひとりに応じた保育がされ、十分な時間を子どもと先生がとり、納得のいくような心の充実さなどもある保育が行われているのだと思いました。	●
Ⅶ 組織運営及び業務改善	●	◎園内における人材育成の推進	◎教職員の積極的な園経営への参画や協働した組織マネジメントの充実に努めている。	90%以上の教職員が「幼保が連携し、互いのよさを生かしたチーム支援体制ができている」と答えている。	園内研修や学年会により幼保の教職員が共通理解を図り、充実した環境構成の準備を組織力を機能させながら行っていく。	A	A	・幼保の教職員が、園内研修で互いに学び合う機会を確保することができた。若い教職員や保育士も参加し、良い機会になっている。今後もこの雰囲気継続していく。 ・短時間で職員会議や園内研修が進められた。子どもと向き合う時間の確保を十分に確保することができた。今後も継続する。	
		◎子どもと向き合う時間の確保	◎教職員が子どもと向き合う環境づくりを推進している。	90%以上の教職員が「1時間の職員会議で効率的に話し合えた」と答えている。	職員会議、園内研修等の会議については、事前に資料を配布するなどして1時間以内で実施する。	A			
Ⅷ 保護者等との連携		◎個に応じた指導の充実<p7>	◎情報交換による家庭との連携や保護者の気持ちに寄り添った支援のための相談体制の充実に努めている。	80%以上の保護者が「相談しやすい雰囲気になっている」と答えている。	年2回の教育相談や降園時の保育説明では、一人一人の子どものよさを保護者に伝えるとともに、保護者の話によく耳を傾け、気持ちに寄り添った対応をする。	A	A	・園児のため、個々のため職員と保護者の充実した連携を期待している。	